

年中行事には是非ご参加ください

年中行事（正月祈祷・春秋彼岸・お盆法要）には是非ご参加ください。お盆の法要（おせ

がき）は近在の和尚様方が出頭されて厳肅に行われます。春と秋の彼岸は、工夫をこらした催し物をしています。正月祈祷は一年をすがすがしい気分始めるための10分ほどの法要です。本堂はすべて椅子席です。お墓参りをするだけでは供養にはなりません。寺での行事にご参加ください。

墓所の工事をする時は寺へご連絡ください

各家の墓所を大きく改修する時、あるいは小さな修理等でも施工する石材店に工事をする上での注意事項がありますので、寺へご連絡ください。なお、墓地を整備したため、十力所ほどの新しい区画があります。ご親戚やお知り合いが必要とされる方がおられましたら、お願ひすることが出来ます。詳しいことは寺へ直接連絡ください。

お参りはご家族そろって！

寺やお墓参りはご家族でお参りください。親から子へ、子から孫へと引き継がれます。むずかしい仏教の教えも自然と理解できます。

年忌法要後の食事は寺でもできます

壇信徒会館（三階建）は、年忌法要後の食事にお使いいただけます。壇信徒会館の二階は椅子席で二十席。三階も椅子席になりました。四十名くらいまで会食できます。出張して食事を用意してくれる店もご紹介できます。

舞台裏を白状します

春秋彼岸に音楽や落語をやりますと言いながら昨年が続いての法話です。でも、昨年と今年はちょっと事情がちがうのです。どうちがうのか！

四年に一度、本山妙心寺から派遣される布教師さんの法話を聞いています。布教師さんの中でも、小川太喜さんの話を皆さんにお聞かせしたいと思っていたのですが、ご本山は派遣してくれない。ならば、こちらから呼んでしまおうということになった今年の春です。くわしくは「編集後記」にかきました。ごらんください。

本堂は全部椅子席です。席を用意する都合上、ご出席の方は電話・FAX等でご連絡ください。



日曜の朝の坐禅

毎週日曜日の朝六時から七時まで、松岩寺本堂での坐禅にどなたでも参加できます。朝六時に鐘をつきますから、それまでに本堂に入ってください。初めの方にも丁寧に坐り方をご案内します。三十分ほど坐って休憩、残りの十五分ほど坐って、最後に般若心経をよんで七時に解散です。

別紙に「霊園管理費のお願い」を同封しました。

編集後記

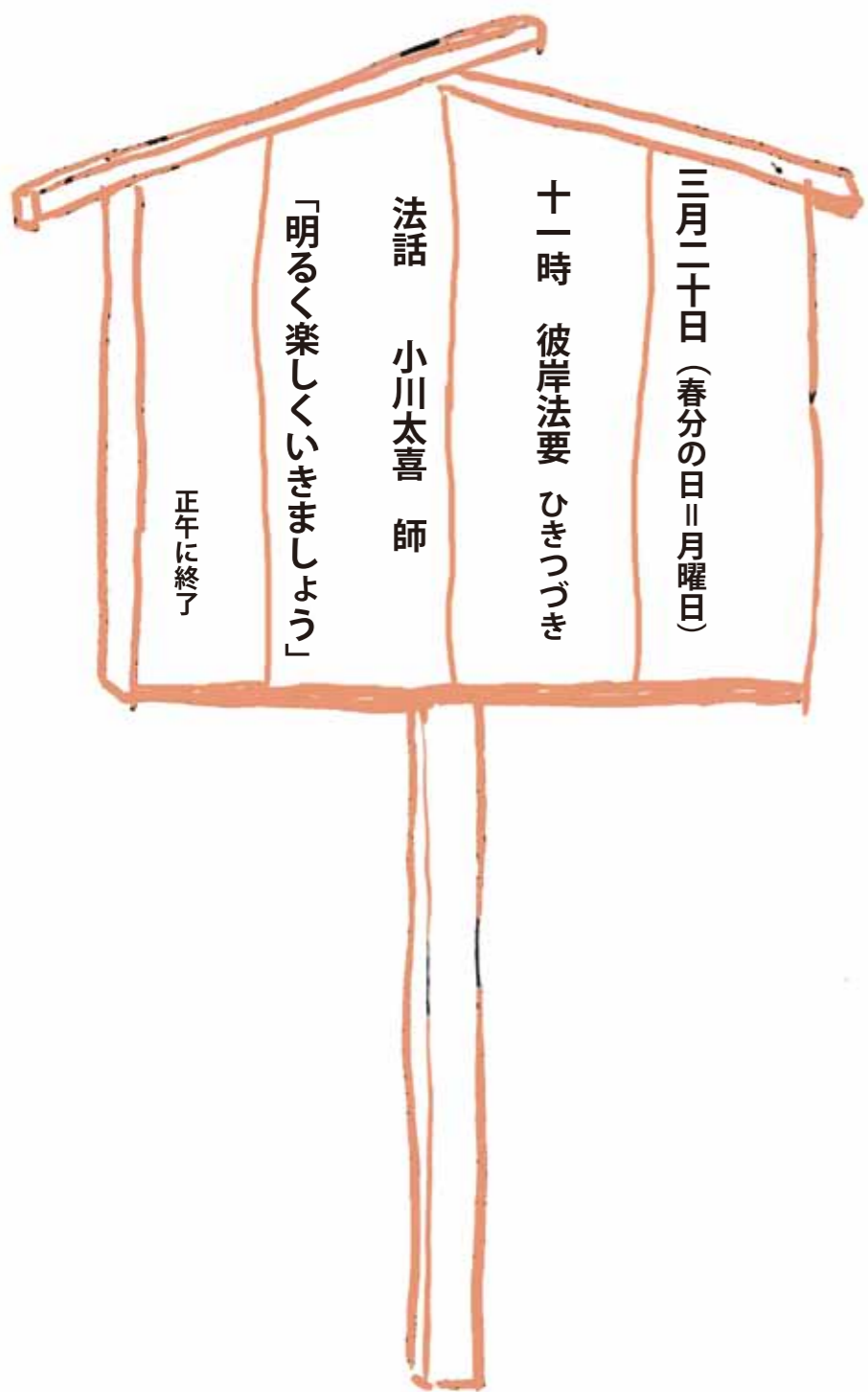
○作家の故遠藤周作さんの代表作『沈黙』が映画化されて話題になっているようです。こんなことを書くと、若い人からは「ナニ、それ」と言われてしまうけれど、「違いがわかる男」といネスカフエのCMに出演していた遠藤周作さんの映像を思い出します。他と比べなければ、違いがわからないわけですが、禅は「比べるな！分別（ぶんべつ）するな」と教えます。今春、彼岸にお話しして下さる小川太喜さんと他の方の法話を比べてはいけないのですが、比べものにならないほど面白い。

○どのくらいかという、小川さんは全国の妙心寺派の寺々を巡回してお話する妙心寺派の布教師ですが、ある日のこと。前日に法話した会場の寺の住職が翌日に違う寺の本堂の最前列に座っている。「どうしたのですか」と尋ねると「あなたの話があまり面白いから、また聴きに来た」というのです。住職が住職の追っかけをする、めったにないことです。

○昨年も書きましたが、二十年ほど前に妙心寺派の布教師になる試験を受けて、わたしは不合格になりました。一緒に不合格になった受講生に、橋本宗久という方がおられました。芥川賞作家の玄侑宗久師です。その時、合格したのが小川太喜師です。これは嫌みではなく、本当にすごかったですから。どのくらいすごかったかという小川さんの話を聞いていた法話の試験を採点する偉い方が、そっとハンカチを取り出して涙をぬぐった光景がいまだに忘れられません。比べてはいけないけれど、違いを感じてみませんか（住職記）

3月17日（金曜日）から20日（春分の日＝月曜日）まで、墓地では花と線香を用意しております。

霊園管理費のお願いが別紙にあります。



三月二十日（春分の日＝月曜日）

十一時 彼岸法要 ひきつづき

法話 小川太喜 師

「明るく楽しくいきましょう」

正午に終了